

算数科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
T1：教諭〇〇 〇〇
T2：教諭〇〇 〇〇

1. 日時 平成23年7月〇日（〇）
2. 場所 〇〇学級教室→〇〇学級前テラス（雨天時デッキ）
3. 学年 〇〇学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）
1年生男子〇人
2年生女子〇人
3年生男子〇人 計〇人
4. 単元名 『くらべてみよう ～かさ～』

5. 単元設定の理由

○ 本学級の児童〇人は、算数科のかさの学習については未学習である。しかし、日常生活の中では、例えば給食時には、「おかずが多いので、ちょっと減らしてください。」や、「ご飯をもう少し入れてください。」と量の加減を要求するなど、〇人の児童ともかさを意識した発言が見られる。また、「いっぱいーちょっと」「たくさんー少し」等のかさの違いを表す言葉は頻繁に使用している。

2年生以上の〇人の児童については、昨年度生活単元学習で、ホットケーキ作りに取り組み、目印をつけた計量カップで牛乳を量りホットケーキを作る経験をした。さらに白玉だんご作りでは、適切な水分量で混ぜなければ、だんごを丸めることができないことが分かり、計量カップの数字をたよりに、水を入れてだんごを作ることができるようになるなど、かさを意識して活動できる場面が増えてきている。

しかし、給食の配ぜんや誕生日会のジュースを配るときなどに、同じ量ずつ配ることができなかつたり、自信のなさから、配る役から避けようとする様子がまだまだ見られる。

○ この実態から、「くらべてみよう～かさ～」の単元を設定した。かさは、物の個数のように数えることができないし、容器によって形を変えるので、測定しなければその量を正確に知ることができないという難しさがある。そこで本単元では、子どもたちの楽しい活動を仕組むことで、かさを測る活動を必然的に行うことができるように設定した。まず、第一次では、大好きな水遊びをするためにたらいを水でいっぱいにしてという活動を設定し、かさについて考えさせ、水を入れる器の大きさを意識することができるようにした。第二次、第三次では、色水をジュースに見立て、「どちらが多いー少ない」などについて直接比較や間接比較をし、任意単位を使う活動を仕組む。第四次では、調理活動等を通して、計量カップやメスシリンダーを使い、量を実際に測定する活動を行うことで、測定することをより意識できるようにした。

○ 本時は、「みんなで力を合わせて、たらいを水でいっぱいにして、水遊びをしよう」という前時の学習のめあてに、「水を運んだ回数を前時よりも少なくする」という条件をつけることによって、児童の気もちをよりかさへと向けさせたいと考える。そのために、前時に使用したバケツとは違う大きさのバケツを2種類用意し、より大きいバケツの方がより多くの水を運ぶことができること、同じバケツでもより多くの水を入れれば、より多く運ぶことができることに気づかせたい。また、運ぶ過程で児童相互の助け合いにも期待したい。

水遊びについては、霧吹きスプレーを使った水のかけ合いをさせる。このとき霧吹きスプレーも容器部分の大きさの異なる物を用意しておいて選択させ、「大きい方がたくさん入る」ことを意識させたいと考えている。遊びの中では児童がヒートアップすることも考えられるが、遊ぶときの約束を明確にして、けがやけんかが起きないように十分に留意したい。

6. 単元の見目

- 水などを入れたり移したり比べたりする経験を通して、かさについて考えることができる。
- かさを比較することばを理解して、適切に使うことができるようになる。
- かさを比較する方法を知り、進んで比較することができるようになる。
- かさを正確に比較するためには、計量カップやメスシリンダーなどの測定器具のあることを知り、正しく使用して測定することができるようになる。

7. 指導計画 (かさー全20時間)

第一次	水遊びをしよう！(かさを意識する)	-----	2時間
	・たらいをいっぱいしよう	-----	2時間 (本時 2 / 2) ※
第二次	ジュースやさんごっこ (直接比較)	-----	4時間
	・どっちが多い？どっちが少ない？	-----	1時間
	・どの容れ物を選ぶ？	-----	1時間
	・ジュースやさんになろう	-----	1時間
	・順番に並べてみよう	-----	1時間
第三次	ジュースやさんごっこ (間接比較)	-----	6時間
	・ジュースを作ろう	-----	1時間
	・どっちが多い？どっちが少ない？	-----	2時間
	・くらべてみよう	-----	3時間
第四次	はかってみよう (普遍単位)	-----	8時間
	・計量カップ	-----	3時間
	・かさしらべ	-----	3時間
	・はかってみよう	-----	2時間

8. 本時の見目

- より大きなバケツには、より多くの水を入れることが分かり、大きなバケツの方を選ぶことができる。
- 霧吹きスプレーの容器の大きさと入る水の量を考え、3種類の中からスプレーを選び、自分が選んだ理由を説明することができる。

児童	個別の見目
A B	○ 大きいバケツにはたくさんの水が入ることが分かり、大きなバケツを選び、選んだ理由を説明することができる。 ○ 3種類の霧吹きスプレーの中から自分が使いたいスプレーを選び、選んだ理由についてかさを比較する言葉を使って説明することができる。
D	○ 大きいバケツにはたくさんの水が入ることが分かり、水の量とバケツの大きさを関連づけ「多いー少ない」という言葉を使って適切に説明することができる。 ○ 3種類の霧吹きスプレーの中から自分が使いたいスプレーを選び、選んだ理由についてかさを比較する言葉を使って説明することができる。
C E F	○ 大きいバケツにはたくさんの水が入ることや、大きいバケツだと1回に運ぶ量を多くすることができることが分かり、大きなバケツを選ぶことができる。 ○ 水の量とバケツの大きさを関連づけ「多いー少ない」という言葉を適切に使って選んだ理由を説明することができる。 ○ 霧吹きスプレーの容器の大きさと入る水の量を考え、3種類の中からスプレーを選び、自分が選んだ理由を説明することができる。

9. 準備物

- ・バケツ (大 15ℓ…6個, 中 10ℓ…6個, 小 5ℓ…6個) ・大型たらい (100ℓ 1個)
- ・霧吹きスプレー (大 1000cc 6個, 中 500cc 6個, 小 300cc 6個)
- ・手順カード (水を入れるー運ぶー移すー印をつける) ・学習のめあてカード
- ・回数記録用ホワイトボード ・回数表示マグネット (40個)
- ・ゲーム用的当て (8個) ・水遊び用帽子 (6個)

10. ○○学級配置図

